

# 巻頭言

びわこ成蹊スポーツ大学  
スポーツ開発・支援センター長 松田 保

2011年は未曾有の自然災害が東日本を襲い、多くの犠牲者と避難を余儀なくされる人々を生み出し、大きな悲しみと苦しみをもたらしました。そんな中、被災地の人々と日本に大きな感動と元気と勇気を与えてくれたのは、ドイツ女子ワールドカップで優勝したなでしこジャパンでした。どんなに苦しい時も諦めずに粘り強く戦い、勝ち抜いたなでしこジャパンの活躍は、スポーツの持つ計り知れない力を世界中の人々に見せてくれました。素晴らしいパスサッカーで多くのサッカーファンを魅了したが、清く正しく美しくプレーした証であるフェアプレー賞を受賞しての優勝は、スポーツの尊厳となでしこジャパンの価値をさらに高めたといえます。またスポーツの力によって世界の多くの人々に日本の大震災の現状を伝え、世界中からの多くの支援と援助を頂きました。なでしこジャパンは復興支援の感謝の言葉を記した横断幕を掲げて毎試合後スタジアムを一周し、サッカーファンとマスコミを通して日本人の感謝の心を世界中の人々に伝えてくれました。

11月幸福度世界一の仏教王国ブータンの国王夫妻が日本を訪れ、被災地の福島県相馬市の桜丘小学校の子どもたちの前でブータンの国旗にまつわる「竜の話」をされ、日本国中の人々に大きな感動を与えてくれました。「皆さんは竜を見たことがありますか」「私は見たことがあります」「竜は皆さんの中にいます」「竜はその人の経験を食べて大きくなるのです」と、過酷な経験をバネに強く逞しく成長してほしいことを被災地の子どもたちに分かりやすく、温かい激励のメッセージを伝えられました。

スポーツ学を学ぶ本校の学生たちも、大震災の後、何か学内で支援体制が組めないかという話が持ち上がり、学長や教職員の賛同と協力を得て東日本大震災復興ボランティア学生支援隊が組織され学部長を中心に推進されました。被災者の霊を鎮魂するお盆の行事が明けてからの8月16日から30日までの間、1班40人の4班編成でのボランティアを募集し、東北岩手県遠野市に拠点を置く「まごころネット」の支援を受け、大槌町・陸前高田市・釜石市・大船渡市などに、主に瓦礫処理とびわスポキッズプログラム中心のスポーツボランティアを実施しました。事後の学生たちの報告書には現場に行っただけでしか分からない大きな衝撃と、確かな実感・体験を通して多くのことを学んだと記されていました。「まごころネット」のボランティアリーダーからも宿泊地でお世話になった地域の人々からも、本校の学生ボランティアの姿勢や取り組みに対して高い評価を頂き有意義なものとなりました。今後も長いスパンで継続して取り組むべきだという意見をたくさん頂きました。

「スポーツでもっと幸せな国へ」という理念のもと、スポーツで培った人間力や人の絆を生み出すオープンマインドのスポーツマン精神を発揮し、あらゆる社会の現場に役立つ人材を育成してゆける大学にしてゆきたいものです。